

なむし
泣き虫ヤナギ





ある庭園に、
美しいシダレ
ヤナギ*の木が
生えていました。
たれ下がった枝は
青々としげり、風が
ふくたびに、ゆうがに
ゆれていました。みんな、
そのヤナギの木が
大好きでした。ただ、その
木自身をのぞいては・・・。
「もっと背が高かったら
なあ。」と、ヤナギはぼやいて
いました。「それに、枝が
地面に向かってたれ下がったり
なんかせず、空に向かって高く
のばせたらいいのに！そして、
ぼくも実をつけられたらなあ！
だって、実をつけられなきゃ、
全くの役立たずなもの！」
そのシダレヤナギは、青くすみきった
流れのほとりに生えていました。小川は、
川底の小石をなでるように、さらさらと

喜びの歌を歌いながら、土手の花を
うるおしていました。そんな小川の
せせらぎに對して、シダレヤナギは
たびたびグチをこぼしていました。

シダレヤナギの木かげには、しばしば
心のやさしい羊飼いの少年がすずみに
来ては、羊たちが近くの牧草地で草を
食べ、小川の水を飲むのを見守って
いました。ヤナギが悲しんでいるのに
気づくと、少年は木を元気づけようと
して、歌を歌ったり、フルートをふいたり
しました。

けれども、何もうまくはいきません
でした。シダレヤナギは、ますます
みじめな気分になるばかりです。枝は
前よりもいっそう地面に向かって
低くたれ下がってきました。ついに、
羊飼いの少年はあきらめてしま
いました。自分がみじめだと思
う以外のことは考えたくないの
ですから、何を
してもむだだったのです。

*シダレヤナギ：英語名はweeping willowで、
「泣き柳」という意味。

ひつじか しょうねん
羊飼いの少年がヤナギの木の^き下へ
くる かいすう
回数^はだんだんと減り、しまいには、
まったく こ
全く来なくなっていました。

まもなく ひとびと
人々は、その木を「ウィーピー
(泣き虫という^い意味)」とよぶようになり
ました。いつも 落ちこんでいて、みじめ
だったからです。そしてウィーピーも、
さびしさに たえられなくな^おってきてしま
いました。またあの 陽気な 羊飼いの少年に
あ 会えたらいいのに！ ヤナギの^き木にと^おって、
じんせい かな
人生はいよいよ悲しくつらいものにな
ってきてしまいました。

けれども ある日、ウィーピーの^{ものごと}物事の
みかた か
見方を変えてしまう出来事が起こり
ました。はげしい 嵐が、そこら中の^お丘と、
ウィーピーの 立っている^{たに}谷を^あふき荒れ
ました。風ははげしくふきつけ、雨は
ざあざあ降りになりました。嵐の^{あらし}まっただ
なか ぶ なか
中で、ウィーピーはどしゃ降りの中を
よろよろと歩いている^{しょうじょ}少女を見かけ
ました。歩きながら少女が泣いているのが
き
聞こえます。

(きつと、まい子になったんだな!) と

ウィーピーは^{おも}思い
ました。(あの^こ子を
たす
助けてあげられたら
なあ。けど、^{なに}何が
できるだろう? ^{かみさま}神様、
この^{おんな}かわいそうな女の
こ たす ^{なに}子を助けるために何が
できるか、^{おし}教えてください。)

しょうじょ
少女はゆっくりと、ヤナギの^き木
の^{ほう}方に向か^きって来ます。

そして、ヤナギの^きたれ下がった
えだ は まえ た
枝や葉の前^に立つと、ぎよつと
してふるえていました。

(しょうじょ あらし まち
少女を嵐から守^{かみさま}ってあげな
さい。) シダレヤナギは、神様の
ささやく^{こえ}声^きを聞きました。(おまえの
えだ は しょうじょ かぜ あめ まち
枝と葉で、少女を風と雨から守^{かみさま}って
あげられよう。だれかに^み見つけて
もらえるまでの^{あいだ}間な。)

かみさま こえ したが えだ
ヤナギは神様の声^に従い、枝をさつと
ひろ しょうじょ なか まね しょうじょ
広げて少女を中へ招きました。少女は
き した はい は おお
木の下^に入^りて、葉の^{おい}しげった^お大きな
えだ した
枝の下^にすわりました。





木の^き下^{した}は
はげしい^{あらし}嵐^{あらし}から
はなれ、静^{しず}か^かで
やす^{やす}安^{やす}らぎ^みに満^みちて
いました。

シダレヤナギが
やわらかい^は葉^おを下^おろして
少女^{しょうじょ}に休^{やす}む^ば場^ばを作^{つく}って
あげると、少女^{しょうじょ}は枝^{えだ}に
よ^よ寄り^よそって、うとうとし^{はじ}始め
ました。ウィーピーの枝^{えだ}と
は^は葉^はにやさしく^{つつ}包^{つつ}まれると、
少女^{しょうじょ}はすやすやとねむって
しまいました。外^{そと}ではまだ^{あらし}嵐^{あらし}が
ふき荒^あれています。

シダレヤナギは、とても^{しあわ}幸^{しあわ}せな
き^きも^も気^き持^もちでいっぱいになりました。
とうとう、自分^{じぶん}は何^{なに}かの役^{やく}に立^たてたの
です！ 少女^{しょうじょ}を嵐^{あらし}から守^{まも}り、幸^{しあわ}せにして
あげられました。人生^{じんせい}は何^{なん}とすばらしく
おも^{おも}えたことか！ 今^{いま}ではうなる^{かぜ}風^{かぜ}さえ、
ヤナギの枝^{えだ}と葉^はの間^{あいだ}をすりぬけながら、
メロディーをかなでているようです。

朝^{あさ}が来^くるころには、嵐^{あらし}は^{あらし}おさま^{あらし}って
いました。少女^{しょうじょ}が目^めをさますと、
ヤナギはほほえみかけました。少女^{しょうじょ}は
あくびをして目^めをこすりながら、
シダレヤナギにほほえみ返^{かえ}しました。
すると、以前^{いぜん}よく来^きて木^きの下^{した}に
すわっていた羊飼^{ひつじか}いの少年^{しょうねん}が来^くるのが
みえました。少年^{しょうねん}は、死^しにものぐるいで
木^きの方^{ほう}に向^むかって走^{はし}って来^きました。
何^{なに}か、さがしているようです。(人^{ひと}
さがしているのかな?)とウィーピーは
おも^{おも}いました。

シダレヤナギが枝^{えだ}をどけると、
少女^{しょうじょ}はお兄^{にい}ちゃん^{にい}のう^{なか}での中^{なか}に
はし^{はし}走り^{はし}こみました。二人^{ふたり}とも、両^{りょう}う^{りょう}でを
いっぱい^いにのばしてシダレヤナギに
ハグし、木^きの^きみき^きにキスしました。
「ありがとう。」少女^{しょうじょ}はにこやかに
お礼^{れい}をい^いいました。
「わたしを嵐^{あらし}から^{あらし}守^{まも}ってくれたのね。」

シダレヤナギは、それはそれは
すばらしい^き気^き分^{ぶん}になりました！
まい子^ごの少女^{しょうじょ}を助^{たす}けてくださいという

いの かみさま き
祈りを 神様が 聞いてくださった
だけではなく、ヤナギは
もんだい こた はっけん
問題への 答えも 発見しました。
こま ひと たす
困った 人を 助けることで、
じぶん かな わす
自分の 悲しみを 忘れられた、と
いうことです。

ひさま て
お日様は ぽかぽかと 照り、
シダレヤナギの えだ のこ
枝に 残っている
あま かがや
雨つぶを、キラキラと 輝かせて
います。おがわ たの うた
小川は 楽しそうに 歌を
うた ながら、き ねもと
歌いながら、木の 根元に パシャ
パシャと 水は ねています。
シダレヤナギは、ふたり こ
二人の 子ども
たちが いっしょに かえ
帰って
い 行くのを みまも
見守っていました。
かお よろこ
顔には、喜びの ほほえみを

う じんせい
浮かべながら。人生は
いま かれ
今や、彼にとって
すばらしいものに
なつたのです！

きょうくん しあわ ほうほう
教訓：幸せになる 方法は、
た ひと しあわ
他の 人たちを 幸せに
すること。わたしが きみ
君を
そうぞう さま まんぞく
創造した 様に 満足できないと
かん じているなら、まわ ひと
周りの 人たちに
たす て さ
助けの 手を 差しのべてごらん。
そうすれば、やがて きみ
君も わたしの
よろこ み
喜びで 満たされるようになると
わかるだろう。

- イエスより

すべての こと 事について、かんしゃ
感謝しなさい。
だいち てがみ こうごやくせいしょ
(テサロニケ人への 第一の手紙 5:18、口語訳聖書)

文：ナターシャ・デラクア 絵：フィリップ・エティエンヌ・モレルとダニエラ・アデア
デザイン：クリスティア・コーブランド

掲載：マイ・ワンダー・スタジオ © 2009年、オーロラ・プロダクションズ AG 使用許諾取得済

"Weepy Willow"--Japanese <http://www.mywonderstudio.com/0-5/tag/japanese>

